

第1回塩竈市防災会議

平成25年1月21日

会議内容

塩竈市防災会議議長

佐藤市長

1. 開会

午後3時00分

2. 挨拶

佐藤市長

3. 委嘱状交付

4. 会議録署名委員の指名

5. 議事

(1) 塩竈市地域防災計画の見直し方針(案)について

- ・資料に基づき事務局から説明

《議事に関する質疑応答》

(塩釜警察署)

- ・東日本大震災は、車での避難者が非常に多かった。
- ・統計的に7割から8割は車で逃げた。
- ・塩竈市内各所で渋滞が発生し、逃げそびれ被災した方も多数いた。
- ・貞山通り、海岸通り、国道45号線の沿岸部は冠水し、被災者も多数出た。
- ・昨年12月7日に津波警報が出された際、大渋滞という報告を受けた。
- ・他の交差点でも同様、一昨年の東日本大震災の教訓が生かされてない事実が確認された。
- ・車避難も現実的な問題として当然対策を講じたほうがよい。
- ・避難ルートだけではなく、逃げた先の車をどうさばくかが課題である。
- ・渋滞が起きないように解消させる方法として、一時的に車を誘導できる場所の確保。
- ・例えば学校の校庭、広場、空き地、あるいは団地内の道路の活用。
- ・一時的に車を何百台、何千台収容できる場所が必要と思う。
- ・基本的には国道45号線、産業道路を全線ストップさせる計画でいる。
- ・高所に逃がす課題があると警察では、ルート、避難方法等、現在色々模索中である。

(事務局)

- ・現在復興推進計画の中でも道路の整備等も含め、事業推進中。
- ・防災計画につきまして、いただいたご意見を踏まえ、計画に反映できるか調整したい。

(仙台土木事務所)

- ・築港大通り線を復興道路として、平成26年まで完了予定となっている。
- ・八幡築港線で築港大通り線までの区間を幅30m4車線に平成27年まで整備予定である。

- ・復興道路として位置付けで、避難路等々に活用していただきたい。
- ・塩竈は観光地ですので、観光客に対する対応はどうでしょうか。

(事務局)

- ・観光客、外国人のための避難誘導等の看板を掲げていたが、不足している認識している。
- ・塩竈市に駅が4つあり、帰宅困難者の対応についても検討するべきと思っている。
- ・観光客等に対しては、エリアメールでの対応もしている。
- ・指定避難所は観光パンフレットに示している。

(復興推進局)

- ・マリゲート周辺の海岸地区については、浸水の被害が懸念される。
- ・マリゲート周辺をデッキで覆い一時的に避難し、避難した部分をデッキで結んだ施設間で安全な場所へ移動。
- ・マリゲート周辺を復興交付金事業で取組めないか検討中。
- ・これらについては、防災会議の中で議論していただきたい。

(JR本塩釜駅)

- ・3.11以降、駅舎の中に避難の掲載しており、日本語と英語表記している。
- ・3.11時、市内で3本の列車が止まり、約150名を市内の避難所に受入れていただいた。
- ・東北新幹線はトンネルの中で止まり、約600名をどこに避難させるか難航した。
- ・移動中の方の避難所への受入れを明記していただきたい。
- ・3.11時、東塩釜駅に約50名近くが一時避難。どこへ避難させたらいいか時間を要した。
- ・一時避難所を明確化し、そこから指定避難所までの経路も入れてほしい。

(事務局)

- ・一時避難場所、避難所を今後拡充することで検討したい。

(東部地区町内会連合協議会)

- ・大地震の場合、車両について左に寄せ鍵をつけたまま避難する方法が一番よい。
- ・3.11は車の避難方法が生かされず、12月7日もより渋滞になった。
- ・津波で車が流され、その後生活、仕事に不便を感じた。したがって、自分の体よりも車も避難させる認識が強い。
- ・ぜひ行政で、モータープールに人と車が一緒に避難ができるよう、地域の車両数の把握をお願いしたい。
- ・3.11時流された場合、保険を受けられない。
- ・新しく保険会社では300円ぐらいで津波による車の損害も賠償。
- ・車を置いて逃げても大丈夫なよう、300円程度だったら車検時、行政のほうで、検討して

はどうか。

(議長)

- ・大変貴重な情報ありがとうございます。
- ・12月の津波警報時、衝撃を受けたのが2つ。市内の至る所で渋滞が発生と1年10カ月前に8,700名が避難。12月も多数おられたこと。
- ・大震災を風化させてはならない。

(塩竈市婦人会)

- ・地域に住む女性がやるべきことを率先して意識をして広めておけばよかった。
- ・マンションの理事長が、全然動いてくれず悲惨な状況。
- ・大きなアパートやマンションの代表に率先して動くことを徹底していただきたい。
- ・最低限度居住者数の備蓄を備えるようにご指導をいただければ大変助かる。

(事務局)

- ・自主防災組織結成を推進しているが、マンション、集合住宅が設立されない状況。今年度より自主防災組織に支援金を支給し、結成率を高めていく。
- ・防災研修会として出前講座等も図り、マンション関係の結成率を高めていきたい。
- ・自助の部分で最低3日の食材等は確保していただきたいと研修会で伝えていく。

(西部地区町内会連合協議会)

- ・大震災の課題、町内会の役割は何だったかという反省点もある。
- ・自主防災組織が未組織の町内会も多く、この辺から入らなければいけない。
- ・町内会の災害時行動基準が各町内会に明確に出てない。
- ・行動基準で安否確認、要援護者に対する支援等を明確にしていきたい。
- ・その辺を重点的に、町内会の意識格差の指導のあり方もポイントの1つ。

(議長)

- ・基本理念の中で、自助、公助、共助
- ・行政側も共助の部分を町内会にお願いできないか、今後会議で共助の範囲を整理しながら議論していきたい。

(北部地区町内会連合協議会)

- ・耳の聞こえない方が避難勧告が聞こえないことで、玄関先で津波にのまれ死亡した。
- ・目の見えない方、耳の聞こえない方、体の不自由な方にお知らせするような対策が必要。

- ・ 2人暮らしの実態を見ると、片一方が片一方を看護している状況。
- ・ 独り暮らしは一定程度自分の身の回りをできるので独り暮らしをしている。
- ・ 2人暮らしは一方の方が不自由であれば、なかなか避難をさせられない。
- ・ 今後そのような世帯にも目を向けていく必要があると実感した。

(健康福祉部部長)

- ・ 災害要援護者、高齢者の独暮らし、障害の方の台帳を整備はしている。
- ・ しかし災害時どう避難させるか、という台帳の整備にはなっていないという現状。
- ・ 先進自治体で、援護者避難を具体的に1世帯当りまで決めて台帳を整備する動き。
- ・ 25年度に向け、そういう台帳整備を考えていかなければいけない。
- ・ 今回色々防災計画見直しにあわせまして、取り組んでいければならない。

(エフエムベイエリア㈱)

- ・ 一市民としては、エリアメールが大分遅れ、すでに分ってる情報が来た。
- ・ ラジオ生放送で12月7日は放送を行ったが、新しい情報をどこから収集していいのかわからなかった。
- ・ 観光時に避難所の場所が分からない場合、エリアメールに避難先を送信されれば助かる。
- ・ すぐ情報が伝達できるよう、努力し、その連携もお願いしたい。

(社会福祉協議会さかえ保育園)

- ・ 市内に公立の保育所5カ所、民間の保育園が5カ所。0歳から満6歳をお預かり。
- ・ 日頃毎月避難訓練を徹底し3.11には赤ちゃんも泣くことなく、お迎えを待っていた。
- ・ 立地条件で苦労した保育所もあった。
- ・ 低地帯であゆみ保育園には水が庭まで入った。
- ・ 東部保育所は逃げるのに集会所、3小までみぞれの中を歩き、それから車で運んだ。
- ・ 新浜町保育所は避難場所がユープールだったが、海に向かって避難するという気持ちにならず、杉小のほうに向かった。
- ・ 高台にある保育園の中には避難所として使われた。
- ・ ひまわり保育園は発電機や炊出し用具を備蓄してあった。
- ・ そのため周りの方に温かい空間と食料と水を差しあげ、安心感がある避難ができた。
- ・ 北浜保育園は津波被害の多い地区で、子供の避難と濡れた方をお迎えし守る状況であった。
- ・ 以前北浜保育園は避難場所の指定だったが、子供の避難ということで、指定が外れた。
- ・ 町内会長から二小避難地へ行くのに、途中の保育園を一時避難場所にさせていただけないかという、契約を結んだ経緯があった。

- ・保育園といえ場所によって避難場所に適するような施設であれば、備蓄品が必要。
- ・地域の水が出る所、井戸水の場所、湧水等、記載もあると便利。

(事務局)

- ・避難場所、一時避難場所は、県からの避難地域の想定を含めながら、見直していく。

(塩竈市校長会)

- ・子供の命を守ることにつきましては、市からの支援もあり亡くなることがなかった。
- ・避難訓練は各学校年3回。地震・火災・不審者に対し、子供たちの意識が図られる。
- ・耐震工事が100%学校ではなされており、助かった。
- ・廊下のロッカーをビス留めており、避難経路が確実に確保。
- ・今までの様々な対策が生きてきているのだろうと、大変心強く思った。
- ・これからは防災教育、「何よりも自分の命を守る」「中学校等ではボランティア、人を助ける」という2本の柱に対し、教育委員会の指導を受け、一所懸命頑張っていく。
- ・教職員も市職員と一避難所の設置をし、一生懸命その中で頑張っております。
- ・12月の地震のとき、第一小学校で車が31台、避難者が44名。
- ・すぐ市の職員も駆けつけ、設置訓練もしており、そのとおりできた。
- ・しかし、車で来た方は、自分の判断のもとに帰っていく人が多い。
- ・注意を促すと「何でお前ら、そんな権限があるのだ」と非常に冷たい言葉を掛けられた。
- ・その辺が大変難しいと感じ、社会教育生涯学習で勉強しなければならない。

(議長)

- ・防災教育が徹底できるよう、一緒に努力をしてまいりたい。

(社会福祉協議会あしたば福祉会)

- ・3.11を受け止め、要援護者登録を呼びかけ、登録をさせていただいている。
- ・要援護者登録で要援護者、保護者が、何となく安心している実情がある。
- ・どんな援護をするのか、どんな援護を受けられるのか不安であり、対策を練ってほしい。

(健康福祉部長)

- ・台帳登録者の情報は地区の民生委員に提供。町内会長から要望があれば提供。
- ・災害発生時、役所に限られた人しかいないので、助けに行く状況にはない現状。
- ・現実に町内会・民生委員の力も借り、お知らせし、避難に必要なときのルート・手段で避難を世帯ごとに定め、単に台帳を登録だけでは効果が発揮できないと思っている。
- ・具体的なもの一生懸命考えながら、地域、民生委員と協力しながら定めていきたい。